

目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	1・48	年度毎に策定する「重点目標」として、昨年度の目標『(利用者と職員が)家庭的な雰囲気の中で共に支える生活』を評価し、同じ利用者が家事を担う傾向があったり、認知症状やADLの状態により利用者の出来る範囲が異なる。又、職員のペースに巻き込んでしまう事もある。	利用者がそれぞれに役割を持った生活を送れるよう支援する。	利用者が出来る範囲で役割を見つけ出せるよう、職員が統一した認識のもとで、利用者の“出来る事”を適切に理解・把握し、気長に利用者のペースで家事動作をチームで支え、「任されている」という安心感や自信をとり戻せるよう支援を行う。	12ヶ月
2	4・19	利用者の家族に対し、運営推進会議の趣旨を説明し、参画を促進する事を過去の目標達成計画にて立案したが、いずれも周知出来ず、広報活動も不十分であった。又、普段より家族との交流や意思疎通においても何か工夫が必要であり、利用者・家族・職員の三位一体で生活を支える方法などを開発する必要がある。	利用者の家族が、ホームの運営や利用者の支援に積極的に参加出来、意見交換や要望、又は職員等との交流を図れる機会を設ける。	運営推進委員会参画を呼びかけ、開催日を告知し参加を促進する。また、会議録を請求書等の送付時に同封したり、ホーム内の掲示板に会議録を張り出す。利用者や家族の外出の支援などを利用者・家族単位で企画し、利用者や家族(子供、孫、きょうだいなど)の交流を促進する。併せて、そこに職員が加わる事で、新たな信頼関係の構築に繋げる。又、家族の意見を吸い上げる為に、年度末などの節目に、アンケート調査を実施しサービスの向上に繋げる。	12ヶ月
3	26・37	昨々年度から継続して、職員が利用者個々の担当を持つ“担当制”の方法を模索しながら実施しているが、十分な関わりが出来ない事や、職員間の情報共有不足などの課題は生じているものの、比較的定着している。	担当制を継続し、より良い利用者との関係を築けるように支援を模索する。	現在実施している担当制を活かし、それぞれ職員が担当利用者の現状報告や生活課題について事前に挙げ、会議の場で情報の共有を図るという現在の方法を活かしつつ、建設的な意見が出せるような体制を構築する。	12ヶ月
4	13・48・52・55	委員会活動においては、職員の主体性や行動力にムラが生じ、職員間で任せきりとなったり、ひとりに負担がかかり過ぎてしまう事があり、各種委員会として十分に機能しなかったという意見が挙がった。	各種委員会(感染症・環境整備・ケア研修・レクリエーション)の活動や機能の強化を図る。	取り組み内容を年間計画として立案する。(例えば、感染症委員であれば、6～8月にかけては食中毒、12～3月あたりはインフルエンザ、ノロウイルスなどの感染予防の啓発を行うなど…)そして、時にホーム長や課長、課長補佐から委員会活動の取り組み内容の助言や指示をもとにそれらに沿って活動する	12ヶ月
5	1・2・3・29・49	地域との交流について、昨年度の目標達成計画にて立案し、3つの具体的な取り組み内容を策定した。概ね実践出来たと評価したものの、近隣施設との交流や、ボランティアの受入や地域資源の活用においては、課題もある。又、ホームが地域に果たす役割についても、もっと積極的に開発する必要がある。	地域との繋がり	①地域の様々な社会資源を活用し、ホーム内外での慰問やボランティアの受け入れを行う。②地域に出向き様々なイベントの参加を行う。③近隣の施設などへ訪問し、交流を深める。④広報誌の発行を行い、家族に送付したり関係機関や地域などに配布する。	12ヶ月

注)項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。